



自然共生サイト

八竜緑地など認定

民間の取り組みなどによって生物多様性の保全が図られる区域を環境省が認定する「自然共生サイト」の認定証授与式が3月27日、名古屋守山区の金城学院大で開かれ、愛知、三重両県の5カ所が認定を受けた。

(片岡典子)

自然共生サイトは2023年度に始まり、全国の328カ所、計9・3万ヘクタールが認定されている。この日は、中部地方環境事務所の小森繁所長が5カ所の関係者に認定証を手渡した。

このうち「八竜緑地・金城学院大学の里山」(同区)は、過剰な伐採ではげ山状態だった時期もあったが、シデコブシやオワリサンショウウオなど希少な動植物が生息する環境が守ら

八竜緑地を見学する授与式の参加者ら「名古屋守山区で

愛三豊田の森、こじま苑も 生物多様性を保全

れている。同市の平野恵嗣環境企画部長は「貴重な場が残っているのは、地元の保全団体や金城学院大などの活動による」と話した。

「斎宮(ぎふ)の杜(もり)三重ブラザー」(三重県明和町)には希少な植物のほか、カワセミなども姿を見せる。緑地内に侵入する竹や特定外来生物の除去などで保全に取り組むブラザー工業(同市瑞穂区)の川野絢子チーム・マネジャーは「人も生き物も楽しめる森をつくるため、活動を継続、活性化していきたい」と意気込んだ。

他に「愛三豊田の森(西広瀬工業団地緑地)」(愛知県豊田市)、「こじま苑」(同市)、「八柱神社―田引の八柱さん―」(三重県松阪市)が認定された。